金澤古蹟志卷十二

城南本多町笠舞筋

○本多町

上・中・下三町に分つ。此の町は、舊藩中は執政國老本多安房守の下邸にて、本多家中と呼べり。明治廢藩置縣の際、更に町名を建てゝ本多町とす。

○本多安房守下邸

延寶の金澤圖に、本多安房下屋鋪とあり。本多家記に、元和元年に拜領すと記載有之と云ふ。改作所日記に載せたる寛文十一年五月田井村五兵衛の書付に、先規は石浦村領之内に而有之處、安房樣下屋敷に相渡。とありて、往昔は此の地内悉く石浦の村地なり。故に石浦社の別當慈光院・法華宗本行寺など下邸の地内にありしかど、古來石浦村某寺と書來れりと。是そのかみ石浦の村地なる故なり。但し三箇屋版の六用集には、慈光院・本行寺の所付を安房殿町と載せたり。此は其の頃の俗稱なりけん。元祿・享保頃の記錄共に安房殿町と記載す。右下邸は惣歩數十萬歩ありといへり。大身なる藩士の下邸中にも、此の下邸は一ヶ所に纏り、家祿五萬石の家人共をば、此の地内に居住せしめたるがゆゑに、數ヶ町に區劃をなし、小藩の城下の如くなり。今本多町と稱し、數ヶ町に分ちたり。

○天狗坂

此の坂は、油車牛右衛門橋へ出る往來の坂路なり。舊藩中は本多下邸の地境に番所柵門ありて、常の往來の通行を禁ぜり。坂名の由來未詳。

○戸田靱負舊邸

天狗坂の坂上なる地邊なり。延寶の金澤圖を見るに、此の地邊は本多安房下屋鋪内とありて、本多氏の臣戸田靱負として千石取の居屋敷なりといふ。然るに後此の地邊をば藩の用地となし、藩士戸田靱負・和田治兵衛・石川太郎右衛門三人の邸地に賜はりたり。戸田が邸地は天狗坂の往來脇にて、和田・石川の邸地は其の向ひながら、本多主水の邸地の後地也。本多元家士青山永保曰く、昔は天狗坂の高なる戸